

「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果・意見等

平成27年8月
船橋市まち・ひと・しごと創生推進本部

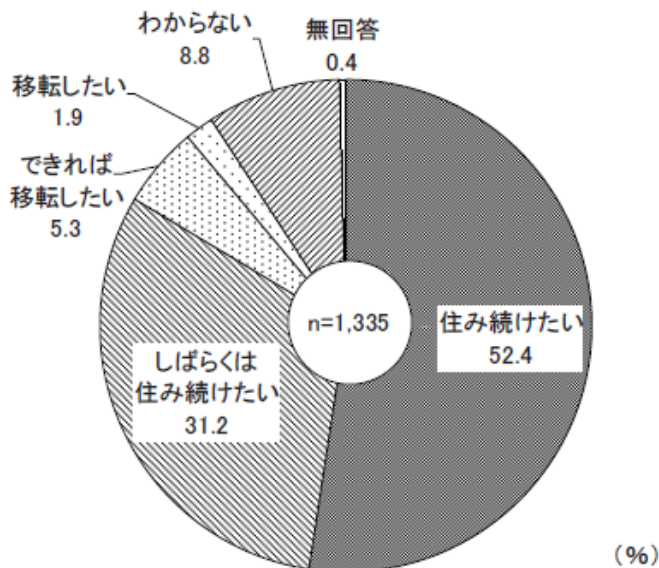
※本資料は、集計中の調査結果を含むため、今後修正する可能性がある

1. 各種意識調査の結果概要

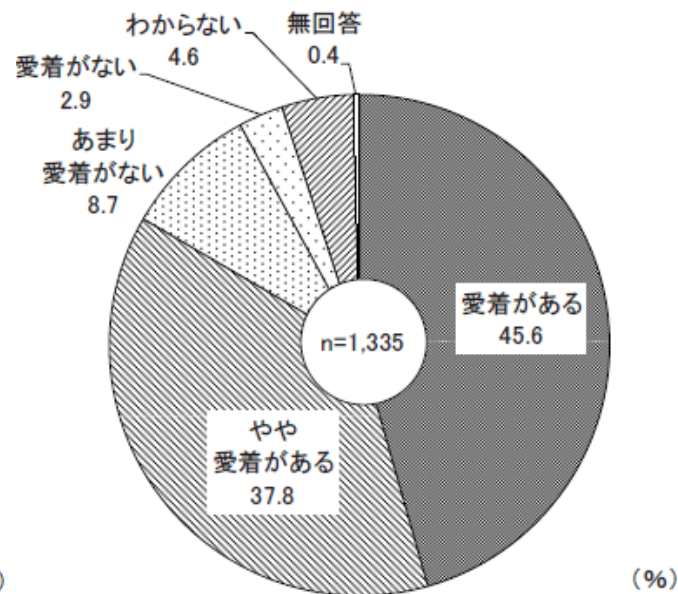
(1) 市民意識調査(その1)

調査対象	船橋市在住の満20歳以上の男女
標本数	3,000人
調査期間	平成26年7月9日～7月28日
備考	船橋市が毎年度実施している調査

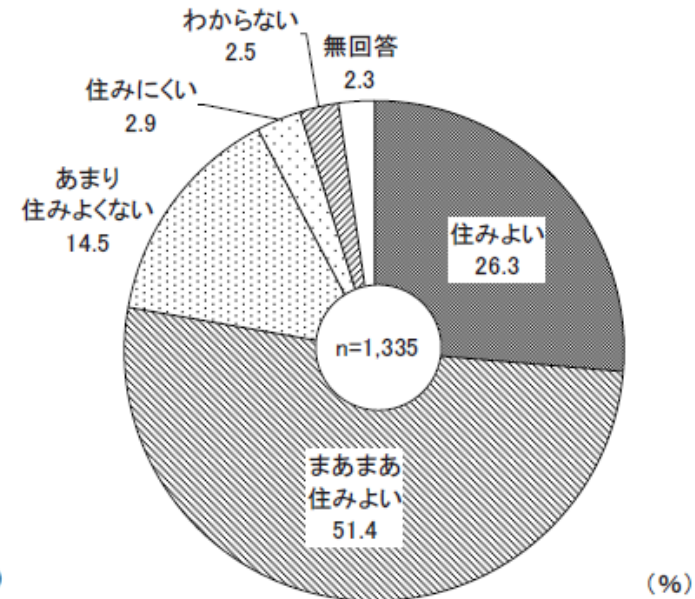
船橋市への定住意向



船橋市への愛着



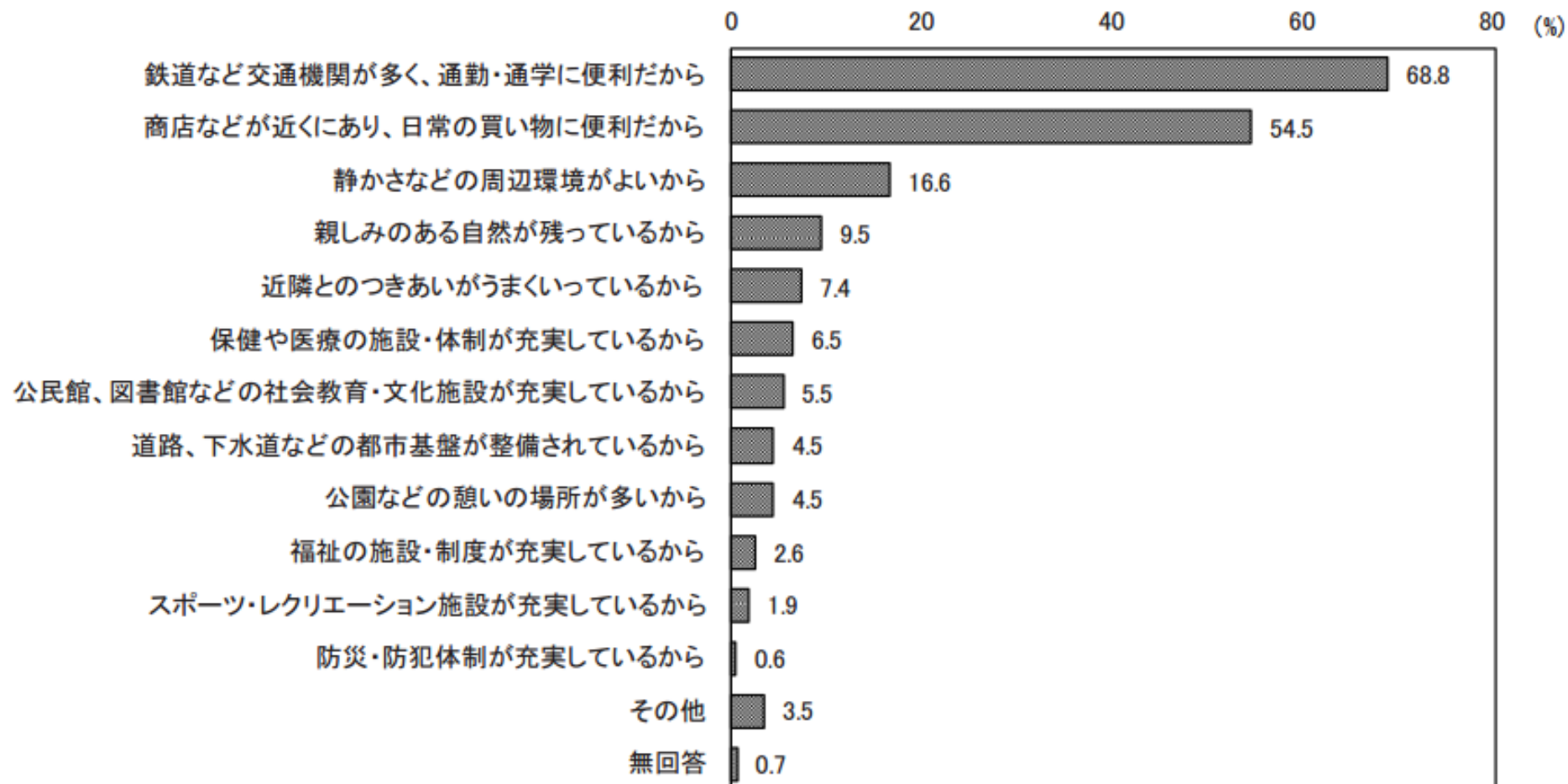
船橋市の住みごころ



出典: 平成26年度市民意識調査報告書

(1) 市民意識調査(その2)

船橋市が住みよい理由

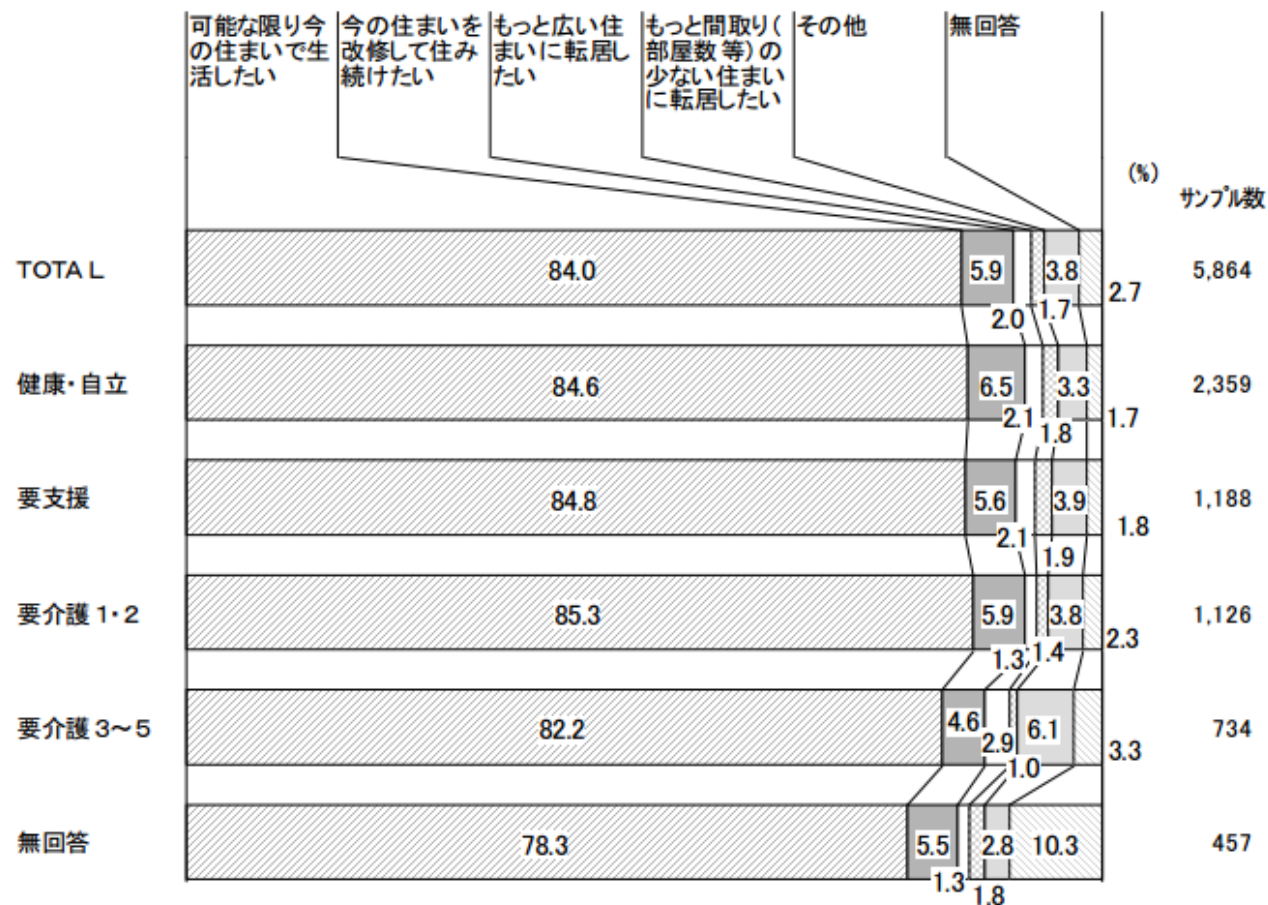


[n=1,037]

(2) 高齢者生活実態調査

調査対象	市内在住の65歳以上の高齢者
標本数	10,000人(要支援・要介護認定を受けている者 6,000人、要支援・要介護認定を受けていない者 4,000人)
調査基準日	平成25年11月1日
備考	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基礎資料とするための調査として実施

現在の住まいに対する今後の居留意向

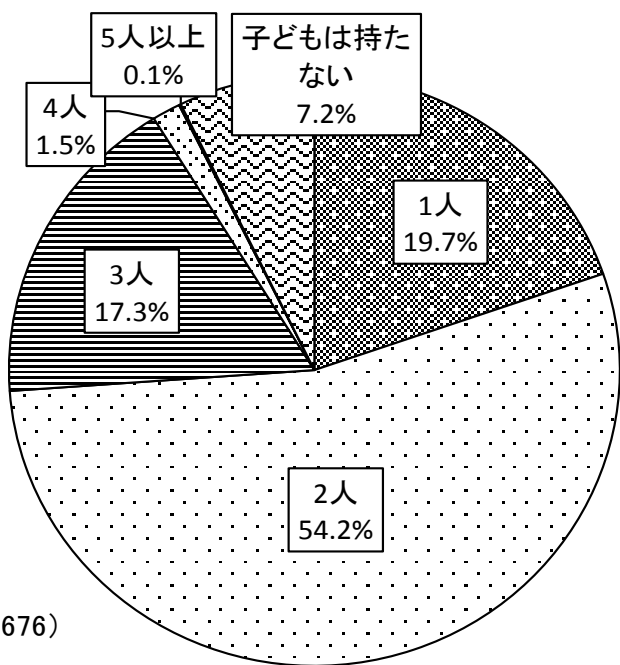


出典: 船橋市高齢者生活実態調査
報告書(平成26年3月)

(3) 結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査(その1)

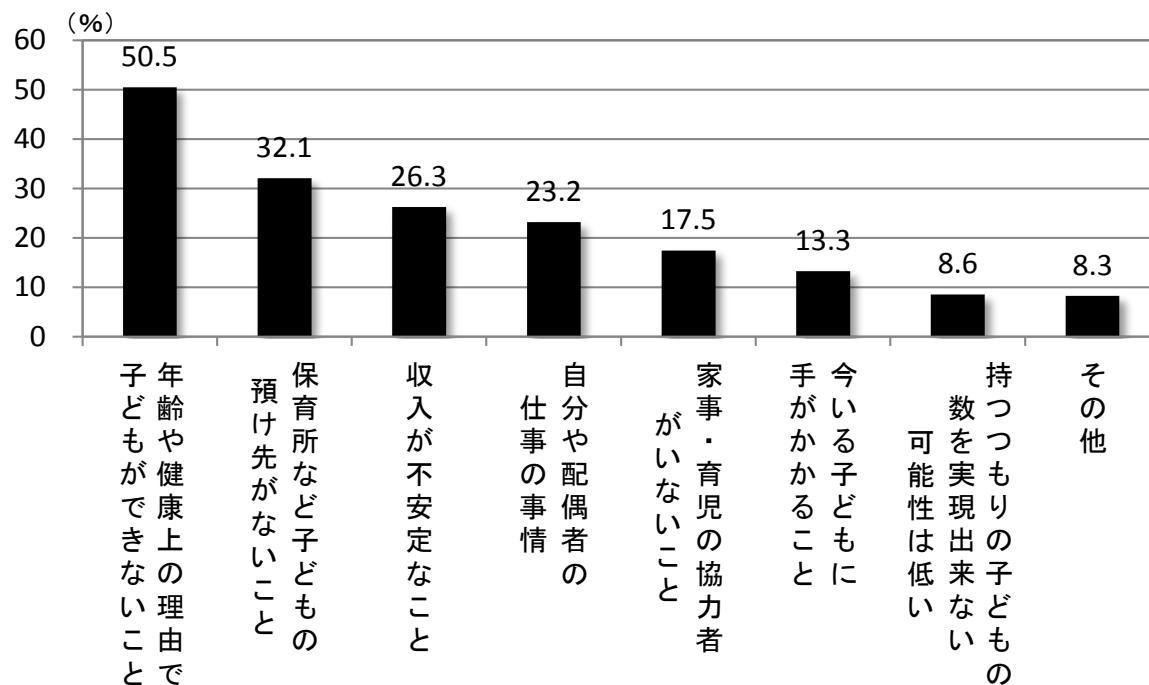
調査対象	船橋市内在住の18～49歳の男女
標本数	5,000人(18～34歳 2,800人、35～49歳 2,200人)
調査期間	平成27年7月1日～21日
備考	船橋市「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基礎資料とするための調査として実施

夫婦の予定している子どもの人数



平均値 1.87人

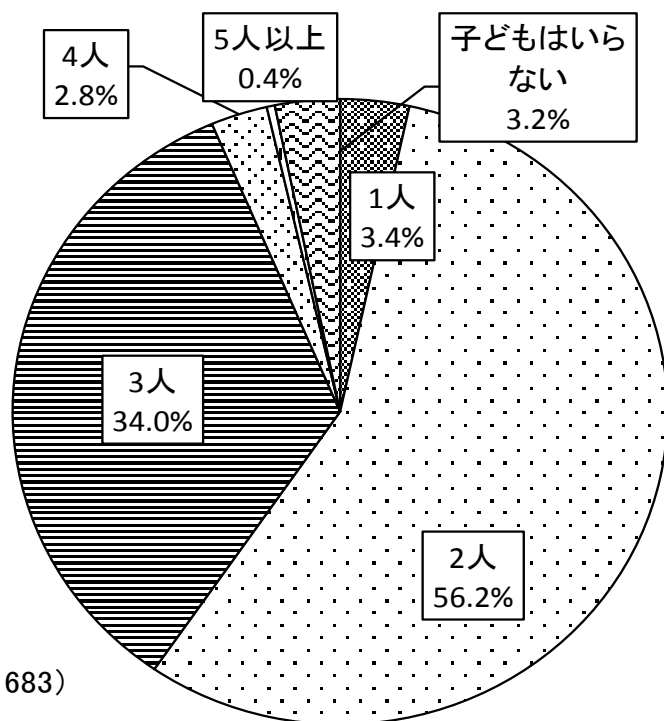
予定している子どもの人数が持てない場合の理由



(n=315)

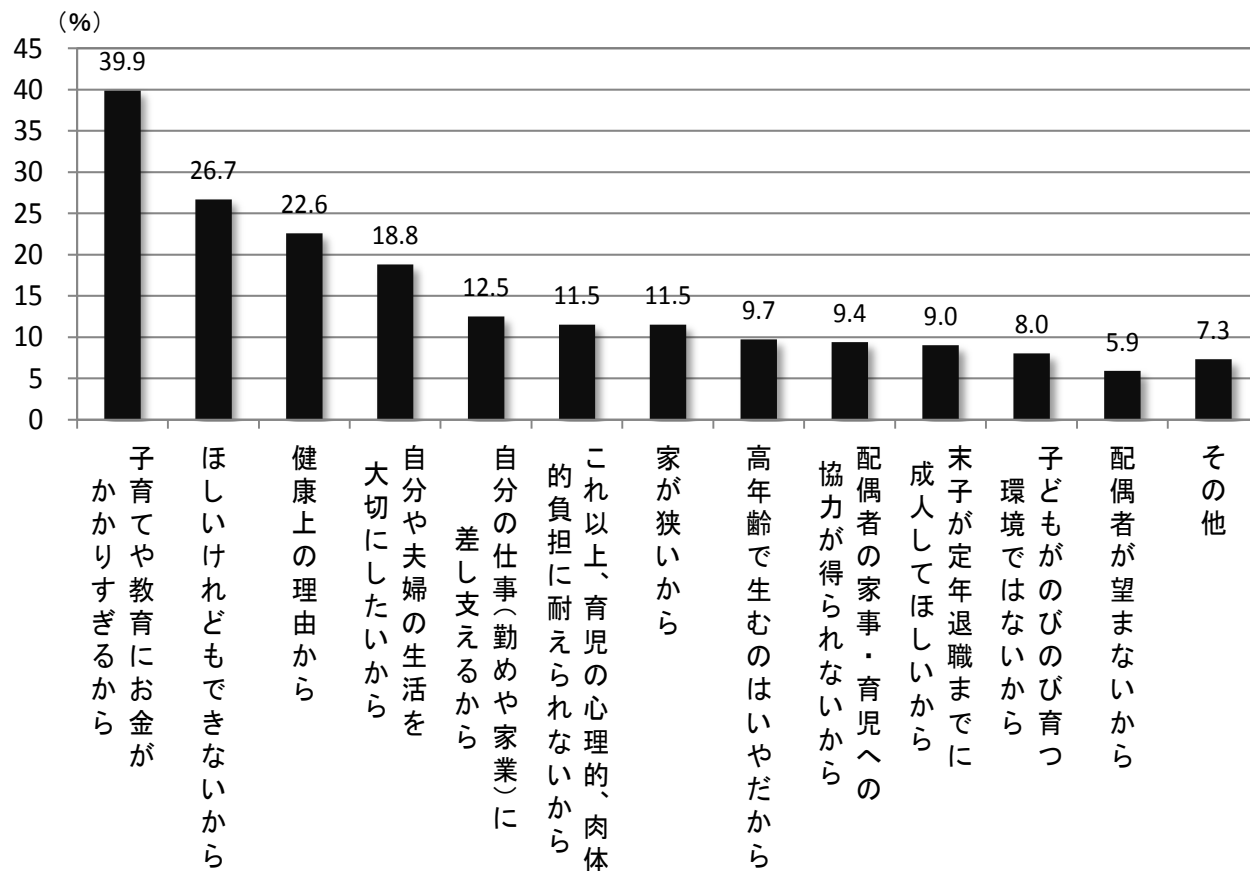
(3) 結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査(その2)

夫婦の理想的な子どもの人数



平均値 2.31人

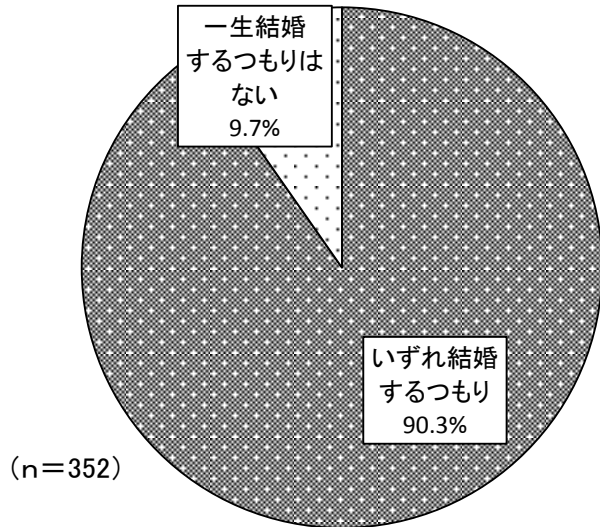
予定している子どもの人数が理想的な子どもの人数より少ない理由



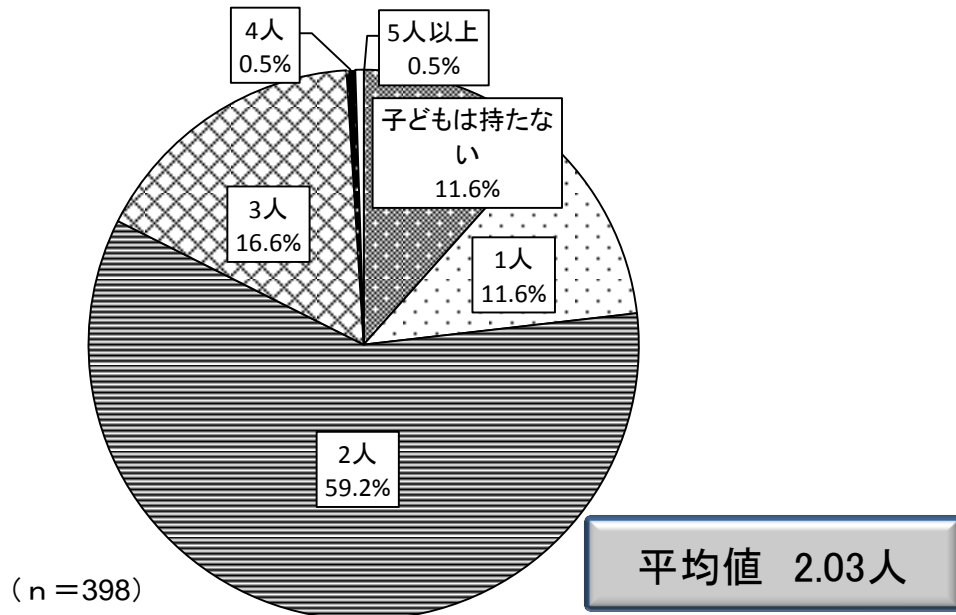
(n=288)

(3) 結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査(その3)

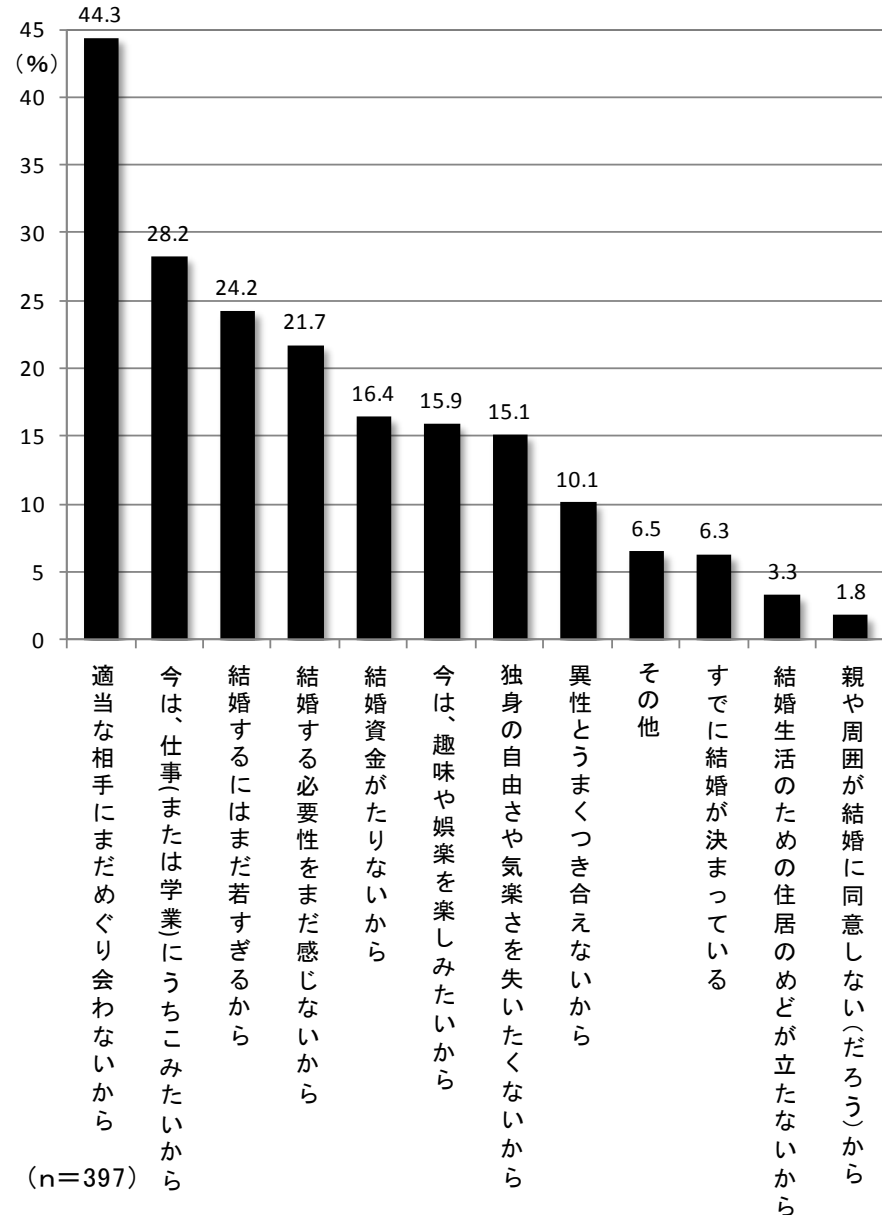
独身者の結婚意向(18~34歳)



独身者の希望する子ども人数(18~34歳)



現在独身でいる理由(18~34歳)



(3) 結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査(その4)

市民希望出生率 1.73 (国民希望出生率 1.80)

市民希望出生率 = (①有配偶者割合 × ④夫婦の予定子ども数
 + ②独身者割合 × ③独身者のうち結婚を希望する者の割合 × ⑤独身者の希望子ども数)
 × ⑥離死別等の影響

※ 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン〈参考資料集〉」(平成26年12月27日)における国民希望出生率の算出方法を参考とした。

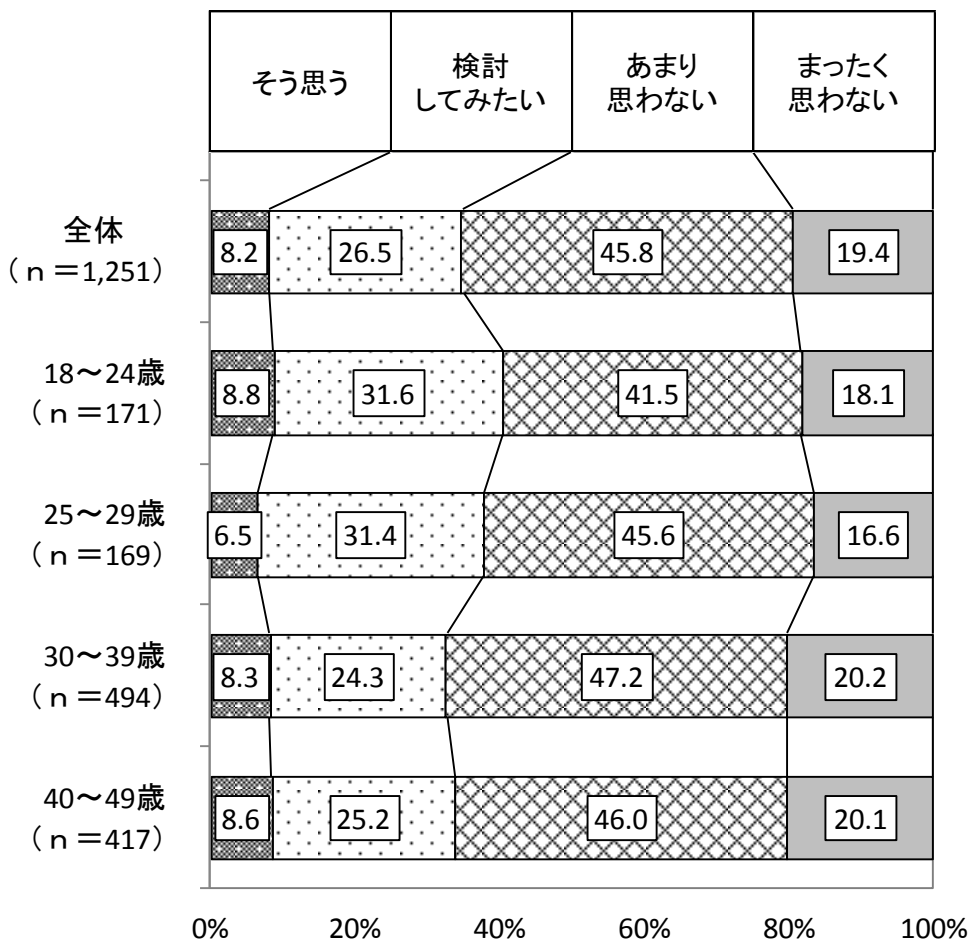
《基礎数値》

項目	国	船橋市	備考
①有配偶者割合	34%	37%	総務省統計局「国勢調査」(平成22年)における18～34歳の有配偶者の割合
②独身者割合	66%	63%	1－有配偶者割合
③独身者のうち結婚を希望する者の割合	89%	90.3%	18～34歳の独身者のうち「いずれ結婚するつもり」と答えた者の割合
④夫婦の予定子ども数	2.07人	1.87人	夫婦の平均予定子ども数
⑤独身者の希望子ども数	2.12人	2.03人	18～34歳の独身者(「いずれ結婚するつもり」と答えた者)の平均希望子ども数
⑥離死別等の影響	0.938		国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」における出生中位の仮定に用いられた離死別等の影響

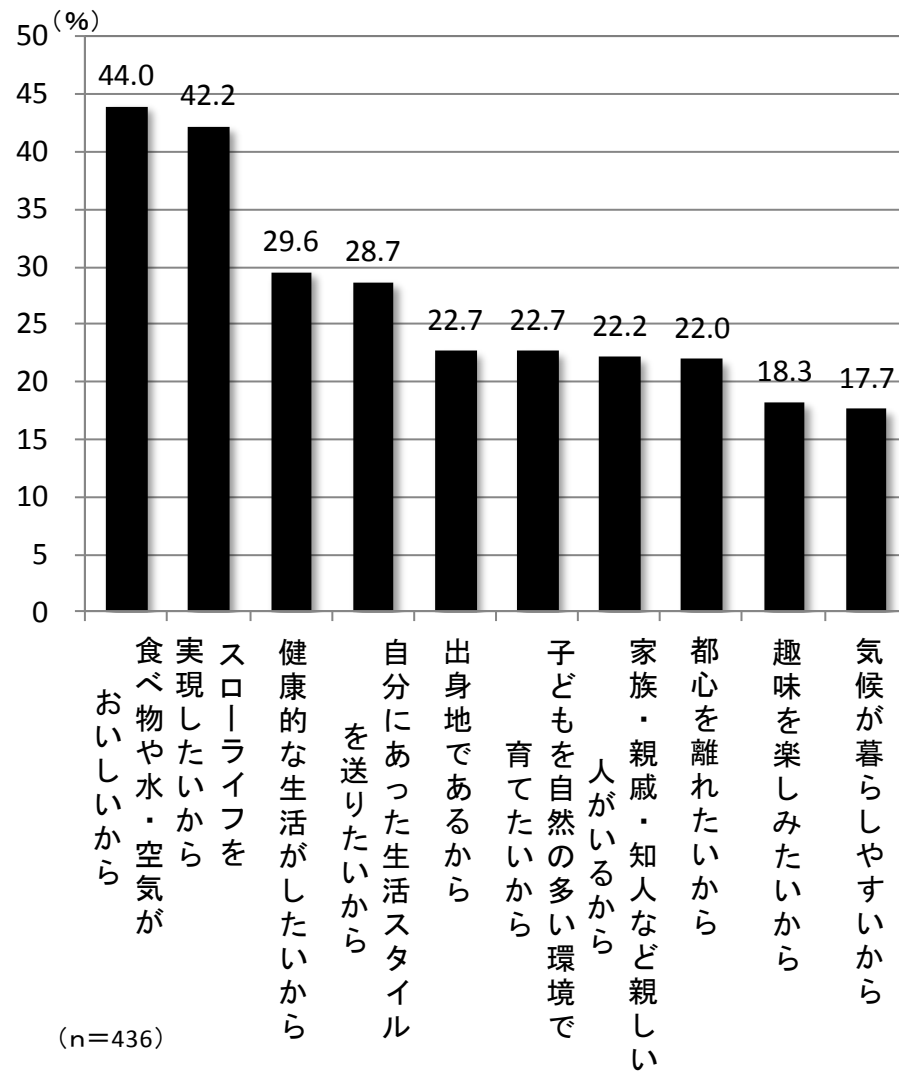
※国の③～⑤は、国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」(第14回、平成22年)における数値

(3) 結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査(その5)

地方への移住希望(年齢層別)



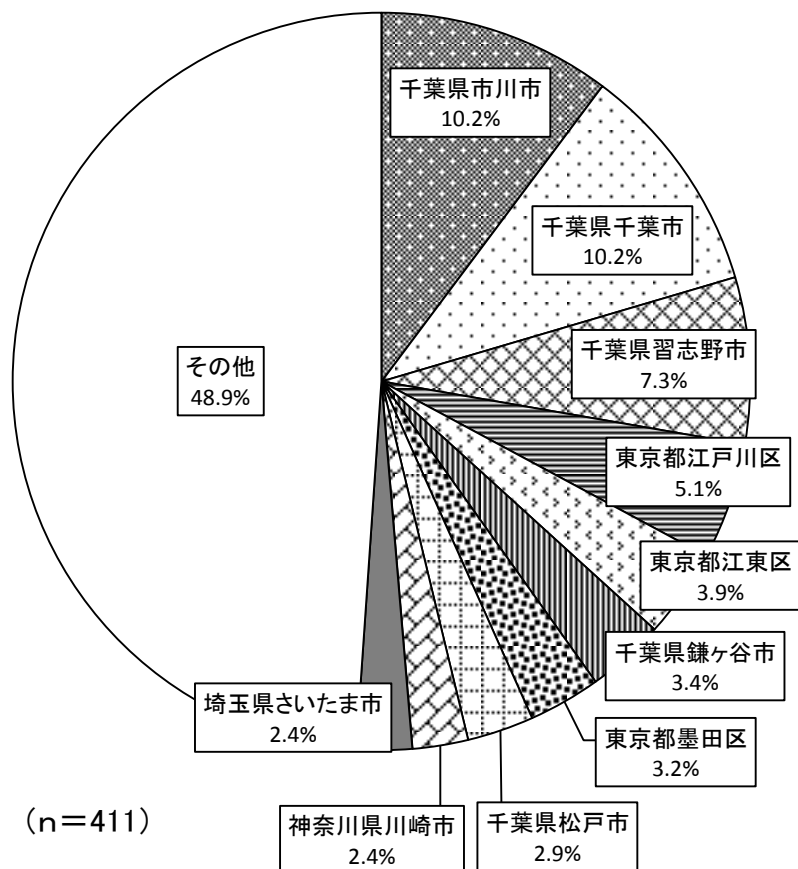
地方へ移住したい理由(上位10位)



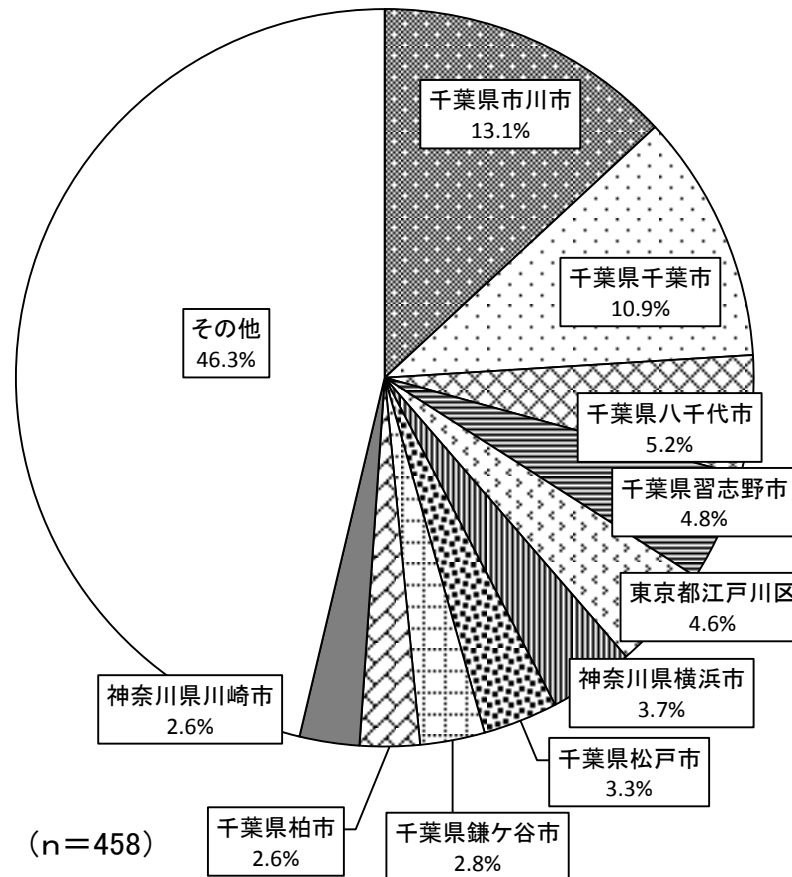
(4) 転出入者アンケート(その1)

調査対象	平成26年4月1日～平成27年3月31日に船橋市内・市外へ転入・転出した18～69歳の男女
標本数	転出・転入者各2,500人
調査期間	平成27年7月1日～21日
備考	船橋市「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基礎資料とするための調査として実施

転出後の居住地(上位10市町村)



転入前の居住地(上位10市町村)



(4) 転出入者アンケート(その2)

転出のきっかけ(年齢層別)

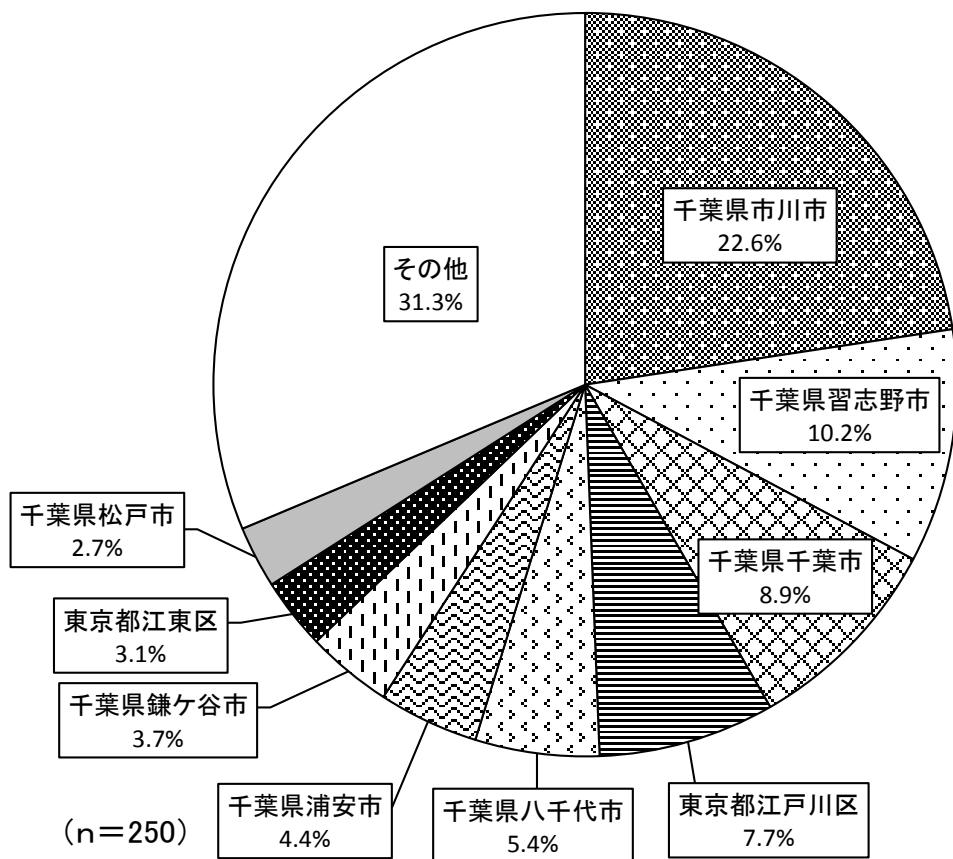
	1位	2位	3位
全体 (n = 555)	結婚 (22.7%)	転勤 (16.2%)	住宅事情 (14.2%)
18~24歳 (n = 50)	就職 (38.0%)	転勤 (16.0%)	結婚 (10.0%)
25~29歳 (n = 125)	結婚 (40.8%)	転職 (10.4%)	住宅事情 (8.8%)
30~39歳 (n = 194)	結婚 (29.9%)	住宅事情 (17.0%)	転勤 (14.9%)
40~49歳 (n = 110)	転勤 (29.1%)	住宅事情 (13.6%)	生活環境上 の理由 (11.8%)
50~59歳 (n = 39)	転勤 (28.2%)	住宅事情 (17.9%)	親と同近居 (15.4%)
60歳以上 (n = 37)	住宅事情 (32.4%)	親と同近居 (13.5%)	生活環境上 の理由 (8.1%)

転入のきっかけ(年齢層別)

	1位	2位	3位
全体 (n = 634)	結婚 (20.0%)	住宅事情 (16.7%)	転勤 (16.6%)
18~24歳 (n = 72)	就職 (31.9%)	結婚 (19.4%)	通勤・通学の便 (8.3%)
25~29歳 (n = 133)	結婚 (30.8%)	転勤 (12.0%)	住宅事情 (10.5%)
30~39歳 (n = 217)	結婚 (24.4%)	転勤 (17.1%)	住宅事情 (17.1%)
40~49歳 (n = 114)	転勤 (25.4%)	住宅事情 (21.9%)	結婚 (12.3%)
50~59歳 (n = 55)	転勤 (23.6%)	住宅事情 (23.6%)	親と同近居 (7.9%)
60歳以上 (n = 43)	住宅事情 (27.9%)	転勤 (11.6%)	転職 (9.3%)

(4) 転出入者アンケート(その3)

転入先として船橋市のほかに
検討した市町村



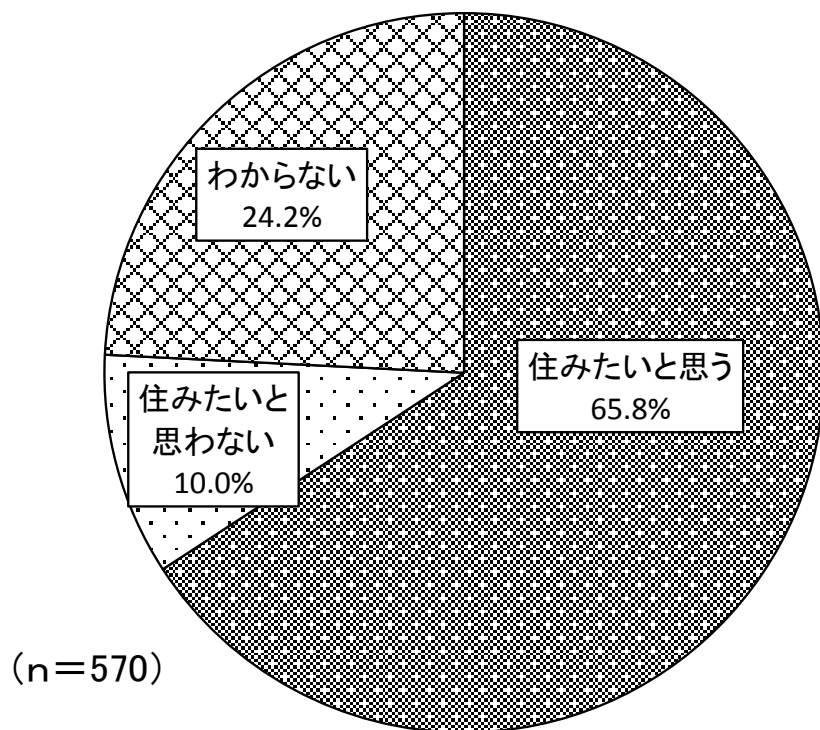
船橋市に転入を決めた理由
(全体・就学前の子どもがいる世帯)

(単位: %)

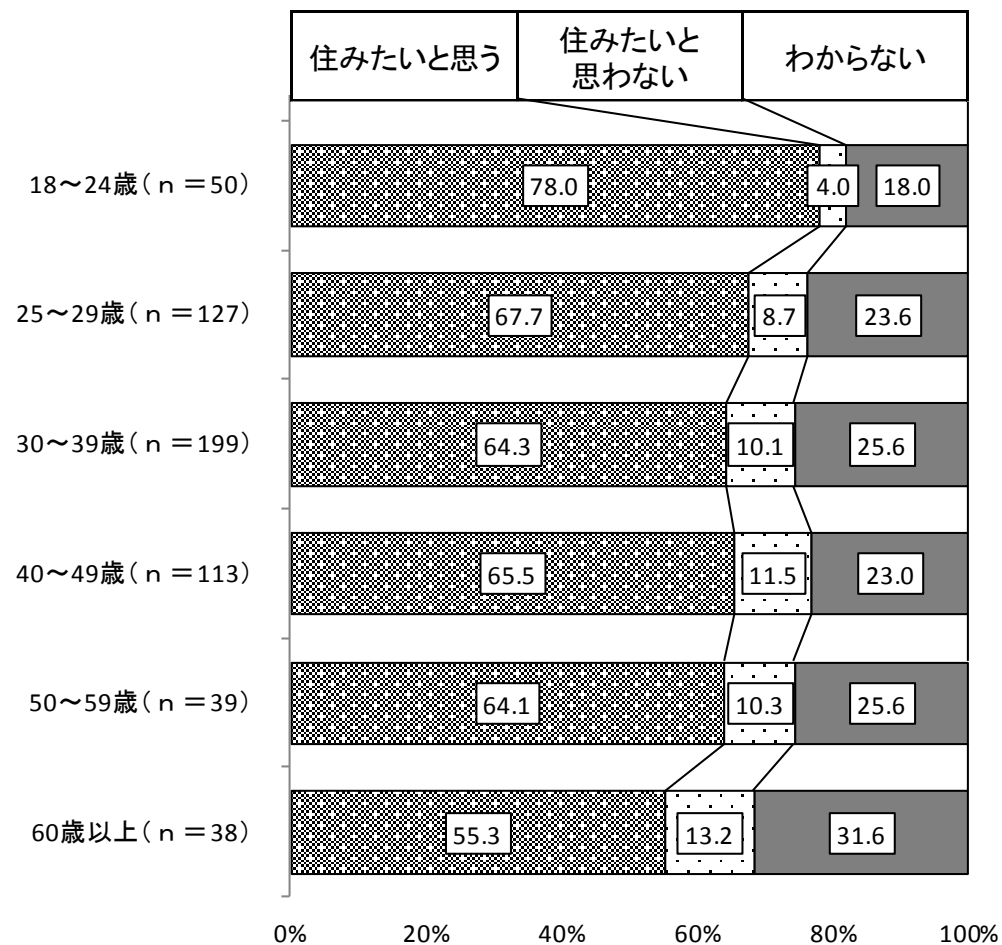
回答数(n)	全体	就学前の子どもがいる世帯
	(638)	(109)
公共交通機関が便利である	34.6	27.5
住宅価格・家賃が適当である	29.6	37.6
職場・学校が近い	27.7	22.0
親や子ども等が近隣に住んでいる	21.6	37.6
買い物・レジャー環境が充実している	16.0	16.5
知人・友人がいる	12.7	9.2
自然が豊かである	6.6	7.3
まちに賑わいを感じる	5.5	5.5
子育てがしやすい環境である	4.9	13.8
医療・介護・福祉が充実している	3.1	3.7
道路など生活インフラが整っている	2.4	0.9
教育環境が良い	1.3	4.6
防災・防犯体制が充実している	0.8	0.9
文化・教育施設が充実している	0.6	1.8
その他	22.4	17.4

(4) 転出入者アンケート(その4)

転出者の再移住の意向



転出者の再移住の意向(年齢層別)



(5) 住みたい街ランキング (不動産・住宅サイト「SUUMO(スーモ)」実施調査)

調査対象	関東(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)在住の20歳～49歳の男女
有効回答数	総計3000名 ※ シングル、DINKS、ファミリー各1000名(うち男女各500名) ※ DINKSは、配偶者が同居している・配偶者以外の同居人はいない・夫婦ともに就業中の人
調査期間	平成25年1月16日～19日 平成26年1月30日～2月2日 平成27年1月23日～26日
調査方法	インターネットによるアンケート調査 ※ 「住みたい街(駅)」の回答は、沿線を選んだ後、駅を選んでもらう選択方式。 ※ 「住みたい街(駅)」の対象駅は、1都4県(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)に所在する駅を対象としている。

《千葉県民が選ぶ住みたい街(駅)ランキング》

順位	H25	H26	H27
1位	船橋	船橋	船橋
2位	西船橋	津田沼	津田沼
3位	千葉	浦安	柏
4位	津田沼	柏	市川
5位	市川	千葉	千葉

出典:「みんなが選んだ住みたい街ランキング」
リクルート住まいカンパニー調べ

《関東在住者が選ぶ住みたい行政区ランキング》

順位	H25	H26	H27
1位	世田谷区	世田谷区	世田谷区
2位	港区	港区	港区
3位	目黒区	目黒区	目黒区
4位	鎌倉市	杉並区	文京区
5位	武蔵野市	武蔵野市	武蔵野市
6位	杉並区	鎌倉市	杉並区
7位	文京区	文京区	千代田区
8位	品川区	新宿区	鎌倉市
9位	渋谷区	渋谷区	渋谷区
10位	横浜市中区	品川区	中央区
11位	中央区	中央区	品川区
12位	中野区	中野区	新宿区
13位	新宿区	千代田区	中野区
14位	練馬区	横浜市中区	横浜市中区
15位	横浜市港北区	練馬区	横浜市青葉区
16位	横浜市青葉区	豊島区	江東区
17位	千代田区	大田区	大田区
18位	大田区	横浜市港北区	練馬区
19位	豊島区	三鷹市	豊島区
20位	船橋市	横浜市青葉区	さいたま市浦和区
21位	さいたま市大宮区	江東区	船橋市
22位	江東区	江戸川区	三鷹市
23位	藤沢市	船橋市	横浜市港北区
24位	横浜市西区	藤沢市	横浜市西区
25位	横浜市都筑区	板橋区	市川市
26位	さいたま市浦和区	さいたま市浦和区	さいたま市大宮区
27位	三鷹市	横浜市西区	江戸川区
28位	板橋区	横浜市都筑区	横浜市都筑区
29位	北区	台東区	板橋区
30位	江戸川区	浦安市	川崎市中原区

2. 関係団体へのヒアリング等結果概要

(1) 日本大学理工学部学生の意見・考え

概要	日本大学理工学部海洋建築工学科 櫻井教授研究室所属の学生11名(出身地:千葉県2名、東京都4名、神奈川県3名、その他2名)に対し、市若手職員6名が「まち・ひと・しごと創生」に関する意見・考えを伺った
日時	平成27年7月23日

船橋の良さ・東京の良さ

【船橋の良さ】

- 家賃相場が手頃。
- 人が多すぎず、落ち着いて暮らせる。
- 都心までのアクセスが良い。

【東京の良さ】

- 都内に住めば、繁華街に近くどこへでも行ける。
- 冒険心・ワクワク感『東京に行けば何かある』
(⇨逆に、このワクワク感は船橋にはない)

よく行く場所・遊ぶ場所

- 船橋市内で遊ぶことはほとんどない。
- 飲み会等で北習志野、船橋、津田沼駅周辺へ行くことはあるが、夜遅くまで飲み明かすことは少ない。
- 学校から北習志野駅の間往復以外で船橋のまちを歩くことは少ない。(遠方の実家より通学している生徒が多く、船橋で寄り道をするよりも、通学経路上にある都内の繁華街を選ぶ)
- 遊び場としては渋谷や新宿など、都内が多い。

情報発信力

- 船橋と他の都市との違いがよくわからない。
- 市のことについて情報を得る手段がない。行政との接点がない。
⇒海苔や人参、ホンビノス貝など船橋の名産を知らない学生がほとんどであった。また、千葉ジェッツと船橋市がホームタウン協定を結んだことについて知っている学生はいなかった。

将来に対する不安

- 「自分は本当に結婚できるのか」という不安。
- 「年金」「働き方」「給料」といったお金に関する不安。

その他

- お金さえあれば、子供を3人以上持ちたい。
- 結婚したら子供はほしい。
- 船橋はあくまで「学校のあるところ」であり、将来の勤務地、生活の拠点として考えていない。

(2)ふなばし若手経済ミーティング参加者へのアンケート

概要	船橋市内で活躍する若手事業者などを対象に、異業種交流の場として開催している「ふなばし経済ミーティング」参加者に対し、船橋の魅力等に関するアンケートを行った
日時	平成27年7月1日(回答数19名)

船橋の魅力

- 都心に近くアクセス利便性が高い
 - ・ 都心にも出やすく住み良い。
- 産業のバランスが良い
 - ・ 農業、工業、商業がバランス良く発展している。
- 人口が多い
 - ・ 住民が多いため町内会などが活発。
 - ・ 経済力がある人の比率が高い。

船橋の課題

- 交通渋滞・道路事情
 - ・ 外国の方が訪れやすいまちとは言い難い
- 情報発信
 - ・ 市民が船橋の事を知らない。その為、休日等に市外へ流出している。
 - ・ 将来市がどうなりたいのか、もっと市民に伝えてほしい。
- 観光
 - ・ 宿泊施設や宴会が出来るスペースが少ない。
 - ・ 観光地がない。
- 小児医療
 - ・ 小児病棟の完全看護を採用している病院がない。

魅力を伸ばす/課題克服のために必要なこと

- 交通渋滞・道路事情
 - ・ 道路事情をスムーズにすることにより、人の交流もスムーズにする方法の検討。
- 情報発信の強化
 - ・ 他市、他県から来たくくなるような情報発信。市民が自然にアピール出来る様になりたい。
 - ・ 宣伝をもっと有効化する。民間ノウハウを活用し、収益性を考える。
- 魅力づくり
 - ・ 宿泊などの長期でなく、短時間的に人が集まることを意識すべき。
 - ・ 東京オリンピックに向けて、外国人に立ち寄ってもらえるまちにしたい。
 - ・ 魅力ある観光地をつくる。
- 連携強化
 - ・ 個人で頑張っている人がたくさんいるのに、まとまって行動していない。
- 子育て支援の充実
 - ・ 子どもへの補助を更に厚くする事で人口増、税収増につながる。
- 入札制度の見直し
 - ・ 入札制度の緩和により、中小企業に適正利益をあたえ活性化することで、仕事増、就職率のUPにつながる。

(3) 開発事業者等へのヒアリング

概要	船橋の今後の住宅・商業開発のポテンシャル等に関して、開発事業者等に対してヒアリングを行った。
日時	平成27年7月23日～実施中
事業者	総合ディベロッパー、県内ディベロッパー、マンション施工事業者、商業施設開発・運営事業者

《船橋市の評価》

○ 住宅開発

- ・ 建築費の高騰でマンション開発が可能な地域は、船橋駅、西船橋駅の徒歩10分圏内に限られる。新京成や東葉高速鉄道沿線のマンション開発は難しいが、総武線沿線を中心に極端に開発案件が減ることはない【総合ディベロッパー】
- ・ マンション購入者の都心回帰が強まっており、建築費の高騰分を吸収可能な4,000～5,000万円台の販売価格で一定の需要が見込める地域となると、県内では市川市、浦安市に限られる。【マンション施工事業者】
- ・ JR沿線であればマンション建設が可能だが、船橋市は周辺地域と比べて販売に苦戦している。郊外での大規模開発が難しいため、住宅開発は水準が低下するが、賃貸需要もあり、人口規模は維持される。【県内ディベロッパー】

○ 商業開発

- ・ 市内で1,000坪程度のまとまった用地があれば、多くの地域で十分に検討出来る。船橋市であれば10年程度は人口構成が大きく変化しないため10年程度で十分な投資回収が見込める。【総合ディベロッパー】
- ・ 周辺の商圈人口が多く購買力も高いことから、既存商業施設の拡張を希望している。【商業施設開発・運営事業者】

《他都市との比較》

- ・ 船橋市から他都市に移る住宅購入者では、現在の居住地から都心方面(市川市、浦安市、江戸川区、江東区)への転居が多い。江戸川区は子育て支援策が充実している事が人気の背景となっている。【マンション施工事業者】
- ・ 松戸市、柏市がライバル都市となる。同じ沿線でより都心に近い市川市は船橋市に比べ都市の競争力は高い。都心への時間距離やブランド力を考慮すると、さいたま市(浦和)や越谷市もライバル都市といえる。【総合ディベロッパー】

《人口の維持・増加に向けて必要な公的支援》

- ・ 雇用の場や、生活利便性等から東京一極集中、都心回帰の流れは変わらない。都内通勤が十分可能な地域であり、住みやすい環境整備が人口の維持・増加につながるため、子育て支援、教育環境向上、医療体制の充実といったソフト面の支援を打ち出せば良い【総合ディベロッパー】
- ・ 保育園に必ず入れるという事を売りに出来れば、住宅開発・販売の点からはキラーコンテンツとなる。船橋市の子育て支援策が充実し、共働き世帯を取り込む事が出来る地域になれば、船橋市が魅力的なエリアとなる。【総合ディベロッパー】